

開設年度		開講部局	
2010		共通教育	
科目名			
陽明学入門			
英語科目名			
An Introduction to the Teachings of Wang Yang-ming			
前後期		履修期	開講区分
前期		1期	毎週
科目形態	単位数	大分類(科目)	中分類(分野)
講義	2	教養科目	分野1
受講学部学科			
全			
担当教員		担当教員所属	
吉田健一		稲盛アカデミー	
連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)	
099-285-3756		k5621643@kadai.jp	
オフィスアワー(授業時間外の対応)			
【オフィスアワー】毎週水曜日午後【メール】 【授業後】			
共同担当教員			
キーワード1		キーワード2	
視野・判断力・探求能力		社会的貢献意識	
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>本講義は、平成21年度前期に開講した「陽明学入門」を更に深化させたものである。今期は、『伝習録』に見られる王陽明の言葉により忠実にあたり、陽明学の本質を掴む。本講義は2期に分かれている。第1期は、儒学の歴史について概観した後、宋の朱熹と陸象山にみる「心」に対する考え方の違いを確認し、王陽明の思想をみて行く。第2期は、日本の陽明学者・陽明学徒の思想を学ぶ。平成21年に取り上げた、著名な人物は取り上げず、比較的有名とは言えない陽明学者を取り上げる。</p> <p>今日、「陽明学」と呼ばれる新儒学の思想体系は王陽明の思想を指すが、一番肝心なのは、王陽明が人間の「心」というものをどう捉えていたかである。陽明学はしばしば、「革命の哲学」や「反逆の哲学」、「行動の哲学」という解釈がなされるが、それは正しくない。陽明学は社会思想でもなければ、革命哲学、行動の哲学でもない。ましてや支配者の論理(帝王学)でもなければ、逆に労働者解放の論理でもない。</p> <p>しかし、陽明学が、社会思想、革命哲学、行動の哲学と(日本で)誤解されてきた事にもそれ相応の理由はあり、心の学(心学)でありながらも、社会や政治に直接的影響を与えて来た事も確かな事である。そして、その影響の与え方は多岐に渡り、誤解・浅解のどれもがそれなりの理由に基づく。</p> <p>本講義ではその理由は何であるかを真剣に考えたい。そして、世間に蔓延る「俗流陽明学」と一線を画し、王陽明『伝習録』から直接、陽明学の真髄を共に学びたい。本講義は、上限を25人に制限し、ゼミ形式で行う。受講制限の理由は、本講義に限っては、大教室での大人数講義では十分な講義が出来ないからである。受講要件は特に設けないが、真剣に「陽明学」に向き合う覚悟のある人だけに履修して頂きたい。</p>			
学習目標			
<p>儒学やその一つの流れの思想である陽明学について、基本概念を学ぶ。陽明学思想のもつ本質的な性格上、教養・知識として「陽明学」を知ることにはさほど意味がないので、常に主体的に自らの「良知」に従って、物事を判断する姿勢を養う。また、世間に蔓延る「俗流陽明学」と王陽明自身の説いた所の違いを明確に理解する事が学習目標である。</p>			
授業計画(15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
(第1期)			
第1回: はじめに - 陽明学とは何か? 講義の狙い			
第2回: 朱熹と陸象山 心即理と性即理			
第3回: 王陽明の人生・人となり			
第4回: 格物(カフツ)			
第5回: 良知(リョウチ)			
第6回: 心即理(シンリ)			

第7回：天理・人欲(テリ・ジンヨク)  
 第8回：知行合一(チウコウウイツ)  
 第9回：事上磨練(ジジョウマレン)  
 第10回：万物一体の仁(バツブツイツタイジン)・抜本塞源論(ハツポソクゲンロン)  
 第11回：王陽明亡き後の「陽明学」 王龍溪・王心斎・李卓吾  
 (第2期)  
 第12回：日本陽明学1 大塩中斎・林良斎  
 第13回：日本陽明学2 山田方谷  
 第14回：日本陽明学3 池田草庵  
 第15回：日本陽明学4 東澤瀉

受講要件	成績の評価基準
<p>真剣に「陽明学」に向き合う覚悟のある人。基礎知識は一切不要であるが、全ての回休みなく出席し、真剣に受講する強い意志を有する者。</p>	<p>全て出席を前提として            (1) 毎回のフィードバックシート(50%)            (2) 期末レポート(50%)を総合的に評価。出席そのものを評価の対象とはしない。            暗記による知識の定着を問うものは実施せず、感じたこと、考えた事をどれだけ自身の言葉で表現できるかをフィードバックシート、レポートで問う。オリジナリティを評価の対象とする。但し、レポート執筆に当たって最低限の知識は必要となる為、講義に全て出る事をレポート提出の条件とする。</p>
教科書	参考書
<p>特に指定しない。講義で資料配布。右記の参考図書を初め、随時、(出来れば読む事の望ましい)参考図書を紹介する。</p>	<p>『伝習録』王陽明・溝口雄二訳・中公クラシックス・2005年、『伝習録「陽明学の真髄」』吉田公平・タチバナ教養文庫・平成7年、『朱子学と陽明学』島田虔次 岩波新書 1967年、『林良斎 シリーズ陽明学27』松崎賜・明德出版社・平成11年、『山田方谷 シリーズ陽明学28』山田琢・明德出版社・平成13年、『東澤瀉 シリーズ陽明学35』野口善敬・明德出版社・平成6年、『池田草庵 シリーズ陽明学30』望月高明・明德出版社・平成13年 他</p>

その他